



普段の生活の中に、自然に本が溶け込む環境

経営重点の一つに「豊かな読書活動」を据えています。日常の読書環境や様々なイベントを通して、本好きの子供たちを育てていますが、学校評価結果をみると、保護者の目に決して肯定的には映っていないようです。

読書好きになるために、小学生の段階までが「ゴールデンタイム」であると、某有名私立中高の国語教師は言います。「幼少期から読み聞かせを続けてきたけど、少しも本に興味を示してくれない…」とか、「日ごろから本を読むように言い続けているのに、逆に本嫌いになっているように見える…」などという悩みを抱える方も少なくないかもしれません。

今回は、子供の読書習慣形成のヒントになりそうな文言をいくつか拾い集めてみました。

1 語彙を増やす 読書は子どもにたくさんのものを与えてくれます。読書をして語彙が増えれば、教科書の内容や先生の話をしっかり理解できるのですから、学力も向上します。また、読書によって増えた語彙は、感情コントロールという点でも力を発揮します。というのも、言葉によって自分の感情を相対化して見つめ直すことができるようになるからです。

2 乱読のすすめ たくさん読んだ中には、子どもがワンシーンだけ、1ページだけ好きになる本もあれば、1冊丸ごと気に入ってしまうような完成度が高い本もあるでしょう。一方で、全然子どもの気に入らない本があるのも当然のこと。「つまらない」本を知らなければ、「この本はおもしろい」ということがわかりません。子どもにはたっぷりの時間がありますから、乱読することで、感覚やものを見る目を養うことができます。

3 興味の延長線上に 大人でも「この本を読みなさい！」と強引に押し付けられたら、内心では反発したり、億劫になったりするのではないのでしょうか。子どもならなおさらです。そこで、おすすめしたいのが「アラカルト本棚」です。“アラカルト”という呼び名どおりに、文系・理系・雑誌・漫画・小説・絵本・世界地図などなんでも、あらゆるジャンルの「おすすめ本」を並べてしまうのです。当然、容量も必要になりますが…。



4 それは禁句 子どもを本嫌いにさせる親のNG行動&ワードが、主に3つあります。

- ① 「本を読みなさい」…読書を強制すること
- ② 「もう絵本は卒業しようね」…読む本を大人が決定すること
- ③ 「どんなことが書いてあったの？」…完璧な内容理解を求めること

5 親が読書を楽しむ姿を 子どもでも大人でも、本嫌いの人はいませんが、その最大の原因は本の魅力をまだ知らない、いわゆる「本の読まず嫌い」なのだとか。本の中には何でも入っているのに、その広い世界と自分の世界が結びついておらず、本はつまらないと思い込んでいるだけなのです。



令和5年度12月の保護者アンケートより

学校評価(保護者アンケート)の際には、たくさんのご意見を頂戴しました。感謝やお褒めの言葉には喜びを隠せませんし、耳に痛く感じる意見には真摯に向き合い、対応していく必要性を感じます。

以下に、主だったものを紹介し、必要に応じて説明を付させていただきます。保護者の皆さんの声は、全教職員で共有しました。そして、すぐにできることから確実に進めてまいります。

※文章表現を一部変えて掲載しています。

【感謝・感想】

- 毎日安心して楽しく通っているということが何よりだと感じる。先生方には感謝の気持ちでいっぱい。

【安心・安全】

- 11月の学級閉鎖は強引だと思う。朝メールを確認する習慣はなく、気づいたのは子どもがすでに出た後だった。その日は在宅で対応できたが、不在ならまた学校へ行くと聞き驚いた。不審者や交通事故など予想できないことが驚きだし、メールでの連絡で全保護者に周知されると考えているのか？下校させる前に電話等で保護者と連絡を取るなどできなかったのか。

⇒ **ご心配をおかけしました。有事に備えて検討・改善します。**

- 校庭に危ない遊具があるのが気になる。滑り台の前にあるコンビネーション遊具だが、児童の背丈まで吊り下がっているため、ぶつかりそうでとても危険である。注意喚起だけでは意味がないし、実際に遊んでいる児童もいるようなので使えないようにしてほしい。

⇒ **危険なものは排除することが必ずしもよいとは考えません。例えば、「ナイフは危険だから使わせない」ではなく、「安全に使うためにはどうしたらよいか」を指導し、見守ることが大切です。しかし、なかよし広場の空中ブランコは明らかに低いので、修繕を検討していきます。**

- 今年の9月は残暑がかなり厳しく、真夏と変わらないような厳しい気温が続いたが、そのような日にも教室の冷房が使われておらず、とても暑かったと聞いていた。冷房や暖房の使用基準があるのだとは思いますが、気候の厳しさは年々増しているのもっと臨機応変に学校の空調の対応をしてほしい。

⇒ **2学期以降10月も冷房を使用していました。しかし、効きが悪いために冷えない教室があるのも確かです。修繕要望とともに、扇風機等を併用して暑気対策をしています。**

- 参観で来校した際、資源ステーションの棚に、廃棄予定のダンボールがバラバラに重なって積まれているのが気になった。子供が接触したらダンボールが落下し、負傷する可能性があるのではないかと不安に思う。忙しいとは思いますが、こまめに紐で束ねたり、棚の下段部分で集めたりしたら良い。

- 挨拶運動(旗当番)は年に数回・自分で入力と今の時代に合わせた感じだが、個々の回数をもう少し増やす・無理のない当番制にした方が子ども達の安全にも繋がると思う。見守りの目はすごく大事。きっと平田小に通わせている保護者達はお願いされれば引き受けてくれる方は多いはずだと感じた。

- 旗当番が任意になり、必然的に人員が減り心配。毎回思うが、子どもたちは横断時に左右を必ずと言うほど確認していない。青なら安全と信じ切っている。人命に関わることなので旗当番だけは親の義務として仕事を遅延させてでもすべきだ。年に数回20分で子供の命を守れるなら大変ではない。

⇒ **昨年5月に校外委員会から『朝の一声運動について(保存版)』というA3判プリントが発行されています。WEBで可能な日や場所を選んで、無理のない範囲で行えるボランティアに変更されました。そこには、「児童一人につき年間2~3回程度を目安」と付記されています。しかし、切り替え当初は当番一覧表に名前が見られましたが、最近ほぼゼロに等しい状況です。今一度、周知に努めますのでご協力をお願いします。**

【教育課程・学校行事】

- 修学旅行の時期が他校は9月に実施、延期で11月としているところが多い中、平田小は11月の寒く

感染症が流行る時期。受験期に近い日程で実施している事に疑問を感じる。何か11月に行わなければならない理由があるか？

- 校外学習は、気候のよい早い時期(ベストシーズン)に予定してほしい。ホワイトスクールを復活してほしいし、グリーンスクールも日帰りではなく宿泊に戻してほしい。
- 林間学校から帰ってきた子供の迎えに学校に行ったが、帰っていくバスに手を振っている子供たちの様子を見て、本当に楽しい林間学校であったことが伝わってきた。

⇒ 日帰り校外学習の日程は、年度当初の早い段階で学習のどの段階に位置付けるかを検討したうえで行先や時期を決めています。しかしながら、バスの手配や学校行事との関係などで希望どおりの日程を確保できないことがあります。学習と関連させて効果的な時期に体験・見学させたいと考えると簡単に冬場を選択肢から外すことはできませんが、健康面も考えて計画していきます。

一方宿泊旅行は、宿を確保する関係で日程が固定化されます。秋の日光方面は宿の予約がいっぱいなので、宿泊先の変更もなかなか叶いませんが検討しているところです。また、今年度初めて行った林間学校は、成果と課題をふまえて来年度も同じ宿泊施設を拠点として活動します。

- 授業参観で、シンキングタイムが長すぎて前後半で入れ替わって参観した前半の保護者は、考え込んでいる姿しかほぼ観られなかった。道徳は正解のない授業で個性が観られて面白い。体育や音楽などもぜひ観てみたい。

【情報提供】

- いつも学校のホームページ、ブログを拝見している。ブログ等で先生のお考えや子供達の様子を知り、より学校を身近に感じる事ができる。特にHP「学校の様子」は他学年の活動が写真付きで分かりやすいため、この学年になったらこういう事ができるんだなあと、子育ての参考にもなる。
 - 学校だよりや各種お便りは、短く簡潔な文章の方が保護者に理解され主旨も伝わりやすいかと思う。説教と同じ(?)で長過ぎると受取側は敬遠してしまい、大事なメッセージという事を忘れがちとなる。
 - 学校からの連絡手段が、紙媒体やスキットメール、ホームページ、LINE ワークス等々あり、混乱する。オンラインでの連絡方法を統一してほしい。
 - コミュニティカレンダーという存在のことに最近気づいた。何らかの方法で案内してもらえるとよい。
 - 学級閉鎖の連絡だが、同じ建物内で生活している以上、そういった情報を保護者だけでも知ることによってより気をつけようと声かけができると思う。クラス単位ではなく全体へ通知してほしい。
- ⇒ 混乱がないように情報媒体を精査しながら、できるだけ情報の共有に努めます。

【その他】

- 一クラスの人数が多過ぎて、先生の負担が大きいと感じている。来年は3クラスになるといい。
- ⇒ 一クラスの人数は、国あるいは県の基準があります。来年度は5年生以下が35人学級です。つまり、35(70, 105)人を超えない限りは学校で学級数を変更することはできません。逆に1人減ることで学級減の可能性もあることをご理解ください。
- 宿題のひとつとして、日記を宿題にはしないのか？ 今まで経験があるのは、夏休みの絵日記や一言日記ぐらい。作文力の練習としてよいと思ったが、宿題として出さない理由があるのか？
- ⇒ 日記を書くことで培われる力があります。ただ、宿題として取り組ませる必要があるかは意見が分かれます。家庭学習として自主的に取り組んでいる児童もいます。親子交換日記も一案です。
- 強制的なPTAを廃止し、ボランティア等にしてほしい。仕事を休まざるを得ず、負担が大きい。
- ⇒ 協力しやすい方法・負担軽減のためにスリム化に向けて検討を続けています。なお、PTA活動に関しては、学校HPのリンクからPTAのホームページで見ることができます。「PTAに関する問合せ先」も表示してありますので、ぜひご意見をお寄せください。



丸数字は学年です

第八中学校からのお知らせです。「八中ブログ」には、中学生の日々の生活や授業、部活動などの様子や役立つ情報が掲載されています。ぜひご覧ください。
<https://ichikawa-school.ed.jp/dai8-chu>

1	金	4校時日課 13:30 下校	15	金	給食最終日⑥ 卒業式前日準備
4	月	卒業式練習開始⑥、通級面談(~17日)	18	月	卒業証書授与式(①~⑤臨時休業日)
6	水	委員会活動(最終)	19	火	短縮4校時日課 12:00 下校
9	土	資源回収、側溝掃除(施設開放団体)	21	木	短縮3校時 11:10 下校(~25日)
11	月	市川市防災教育の日	22	金	大掃除
12	火	卒業式予行(5年見学)⑤⑥	25	月	修了式・離任式 ⑤のみ下校 12:00
【4月】 始業式4/8 入学式4/9 給食開始4/11 1年給食開始4/15 学力テスト4/18					

学級数の見込みとお願い

現在在籍する児童の転出調査及び転入情報、そして入学説明会を終えた段階での入学予定者数から、以下の予定で進めていることをお知らせします。

なお、たとえ1名の増減であっても学級数が変動します。転出・転入について速やかにご連絡ください。

新1年生：3学級 81名	たんぼぼ：5学級 37名
新2年生：2学級 67名	4くみ：2学級 13名
新3年生：2学級 61名	
新4年生：3学級 71名	
新5年生：2学級 67名	
新6年生：3学級 82名	



新聞切り抜きコンクール

四年生が、「特色ある千葉県」の学習を進展させて、グループでテーマを絞って情報を集めてまとめました。壁新聞やプレゼンテーションソフトを使ってグループで発表しました。その壁新聞の2グループがコンクールで表彰されました。

努力賞 題名『人々の努力』
努力賞 題名『溢れる日本の笑顔』



卒業式について

卒業式は、昨年度同様、6年生とその保護者の参加で举行します。また、学校応援団である学校運営協議会の皆様と見守りボランティアの方には来賓としてお声かけしました。

当日は、1年生から5年生は臨時休業となります。前日までに在校生全員で、掲示環境を含め、心を込めて卒業をお祝いするメッセージを発信していきます。

- 日時 令和6年3月18日(月) 10時~11時半
- 会場 平田小学校 体育館
保護者もご来賓も直接体育館へお願いします

※なお、入学式(4/9)は、今年度同様6年生が新入生を迎えたり式の中で校歌を紹介したりする予定です。

短い期間ですがよろしくお祈りします

一宮香織教諭の産休補助教員として、19日からたんぼぼ一組の担任として勤務しています。約一か月ですが、声をかけてください。よろしくお祈りします。



南保(なんぼ)先生